

## 2019年度宮城厚生協会新入職員辞令交付式

### 86名のフレッシュな仲間とともに



2019年度 辞令交付式

# 厚生協会だより

2019年5月21日  
第 355 号

発行  
**公益財団法人  
宮城厚生協会**  
〒985-0835  
宮城県多賀城市下馬  
二丁目13番7号  
TEL 022-361-1113  
FAX 022-361-1124  
発行人：平賀秀夫

4月1日(月)、坂総合クリニック1号館8階会議室において「2019年度宮城厚生協会新入職員辞令交付式」が執り行われました。今年度は86名のフレッシュな仲間を迎えました。小熊信理事長と新入職員代表の熊谷優大医師のあいさつをご紹介します。

#### ■理事長あいさつ

(公財) 宮城厚生協会理事長

小熊 信

皆さんおはようございます。公益財団法人宮城厚生協会理事長の「小熊」です。まずは皆さんの当法人への入職を職員一同歓迎いたします。2019年度にわが法人に入職された新入職員は86名であり、このように多くの若者が最初の職場として当法人を選ばれたことに、理事長として大変うれしく思っております。

#### 法人の沿革、概要、理念

最初に当法人の沿革、概要について紹介します。

宮城厚生協会の原点は、約100年前の1914年に医師である「坂 定義(さかさだよし)氏」が、皆さんが今いらっしゃるこの地に「私立塩竈病院」を開設したことに始まります。その後1937年に創始者の名を冠して「坂病院」に改名され、1950年に坂病院を中核事業所とした「財団法人 宮城厚生協会」が設立されました。創始者である坂先生は、当時の貧しい地域社会で貧富の差に関わらず無差別の医療を実践し、その理念は坂総合病院として1955年、宮城厚生協会としては70年という長い歴史の中で醸成され、受け継がれてきました。

2013年に、より公益性の高い「公益財団法人宮城厚生協会」として再発足して、現在の法人は4病院7診療所そして7か所の訪問看護ステーションを擁する県内最大の民間医療事業法人に成長して

きました。そして「患者の権利を尊重し、患者に共感し患者と協同して、平等・安全の医療をめざしていく」ことを我々の組織理念と位置づけた上で、「差額ベッド」を持たずに「無料低額診療制度」を導入して、「公平で平等」な医療と介護の事業をめざしています。

#### 法人を取り巻く 外部環境の変化、動向

さて2010年代に入り我が国の医療、介護をとりまく環境は、これまでに類を見ない規模で大きく変貌しつつあります。今後わが国で想定される少子化と高齢化によって、医療・介護の需要環境が量的・質的に大きく変動する中で「地域包括システム制度」が導入され、これに伴って医療機関は高度急性期、急性期、回復期、慢性期という4つの医療機能に明確に類型化されようとしています。そして機能分化されたそれぞれの医療機関は、介護事業所も含めて相互に連携・協力していかなくてはならない時代となってきました。



祝辞を述べる小熊理事長

このように法人をとりまく外部環境が大きく変化していく中で、現在当法人はこれらの変化に適切に対応すべく2016年に開始した「経営構造転換5か年計画」をはじめとした様々な組織改革に挑戦しているところです。これは、わが法人の理念である「民主的な運営のもとでの無差別、平等な医療、介護」を今後の厳しい環境下でも地域住民に恒常的に提供できるように、経営基盤の強化を主要な目的としています。

さらに、各医療機関の機能が各地域で半ば強制的に類型化されようとする中で、当法

人の既存の事業所における各診療機能を見直しながら中長期的な事業構想の作成に取り組んでいます。

また、今後の主要な経営戦略として、組織全体の生産性を向上させていくために、職員一人一人のパフォーマンスを最大限に引き出せるように、現在の単一な「年功序列型人事制度」から目標管理を基軸に据えた新たな「人事評価制度」の導入を検討しています。

このように現在当法人では、「経営構造転換5か年計画」、「各事業所の中長期構想作成」、そして「新人事賃金制度」など、今後の法人に大きな影響を与えるような種々の組織改革に取り組んでいるところです。

### 法人が新入職員に望むこと

そこで当法人に組織の一員として参画することになった皆さんに、理事長として2つのことを望みたいと思います。

今申し上げたように、当法人は医療介護事業の外部環境が大きく変動する中で、将来

に向けての組織改革を行なっている最中ですが、これら一連の組織改革を推し進めていくためには、従来の既成概念や慣例主義にとらわれない職員一人一人の意識改革が求められています。

イギリスの有名な政治家であるチャーチルは、訪英した日本の若い皇太子に次のような励ましの言葉をかけたそうです。「人生を長く生きてきた者は、過去の失敗や不幸、苦い体験を引きずり、これから抜け出すことができずに保守的になりがちである。しかし若者はこのような呪縛にとらわれることが少なく、勇気さえあれば主体的に前向きな姿勢に立つことができる」。

本日から当法人の組織の一員となる皆さんが、潜在的に持ち合わせている過去に引きずられない主体的で、前向きな姿勢でより積極的に組織運営に関与し、新風を吹き込むことにより組織改革の推進に貢献していくことを望みます。

2点目として望みたいことは、自分の人生の価値観と我々法人の組織理念との関わりについて、これからの職場

での活動を通して考えていただきたいということです。

あと2時間足らずで新元号が発表され、1か月後には歴史的な改元を迎えます。改元は、社会的必然性を持たない人為的なイベントですが、一つの時間的区切りとして平成の時代における社会の変遷と自分の人生を振り返り、その総括を今後の自己の生き方と社会の在り方を考えていく際の一つの糧として位置付けていくことは、意義のあることだと思います。

平成時代の30年間を振り返ってみると、平成の時代は災害が多く、一丁化が急速に進化するなど多彩な時代の変遷がみられました。他方、政治経済的にはグローバル経済の発展が世界的規模で推進される中で貧富の差が拡大し、社会的格差も増幅された時代といえます。

私たち法人は、公平・平等という人類にとって普遍的な価値観が軽視され、経済的・社会的弱者が置き去りにされるような社会や政治の在り方に反対して、そのアンチテーゼとしてこれまで「基本的人

権を尊重して無差別、平等な医療介護の提供」を社会に訴えてきました。

他方、皆さんがこれまで生きてこられた平成時代の20数年間は、両親をはじめとして学校の先生や友人などの周囲の人たちの支援や保護のもとに生きてこられたと思います。しかしこれからの皆さんは、社会人として社会的責任を付託されながら、自分の人生を自ら切り開いていかなければなりません。そして、そのための「行動指針」は、これから皆さんが醸成していかなければならない人生観や価値観に大きく影響されるはず

です。皆さんがこれからの人生観や価値観を醸成させていく過程で、当法人での仕事や様々な活動、経験を通して前述したわが法人の組織理念が皆さんの人生観・価値観に同化されていき、皆さんが「宮城厚生協会」で末永く働いていくことの意義を見いだしていくことを心から望みます。

### 結び

最後に、健康に留意しながら

ら法人内外で様々な経験や学習を通して人間として大きく成長し、社会人として活躍されることを心から期待して、歓迎のあいさつといたします。本日は入職おめでとう。



あいさつする熊谷優大医師

### ■ 新入職員代表あいさつ

一日も早く一人前の医療者として地域に貢献できるよう、精いっぱい努力していきます。

医師 熊谷 優大

本日は、私たちのために、このような式を開催していただき、誠にありがとうございます。新入職員を代表いたします。

まして、心よりお礼を申し上げます。

先程、理事長の小熊先生より、期待と励ましのお言葉をいただき、たいへん身の引き締まる思いであります。

私がまだ高校生だった2011年、多くのいのちが、くらしが、一瞬にして奪われる出来事がありました。当時のことはもうほとんど思い出せないなかで、逃げながら振り返った津波の黒、そして泥の中の愛犬を抱きかかえた時の硬さ、重さ、冷たさだけは今でも鮮明に残っています。黒い、硬い、重い、冷たい、死。私にとつての震災は死であり、これが生に向き合う医師という職業への導きとなりました。

あれから8年。多くの人や考え方との出会いに恵まれ、ようやく医師になるという一つの目の目標に到達できました。これからは、すべてのいのちが大切にされ、安心して暮らせる社会の実現を目的として、ひとつひとつの目標に全力で取り組んでいきたいと思っています。

私たちは、病を抱えた人々

を支えるべく、それぞれに勉強・努力を積み重ねて参りましたが、医療者としては未熟でございます。今後先輩方のご指導の下、一日も早く一人前の医療者として地域に貢献

できるよう、精いっぱい努力していく所存です。  
ご迷惑をおかけする事もあ  
るかと思いますが、ご指導ご  
鞭撻下しますようお願い申  
上げます。

以上、簡単ではございますが、新入職員を代表しての感謝と決意の言葉とさせていただきます。

し寄せてくる可能性がある。」という想定。

模擬患者役の新入職員約40名は事前に、先輩職員に援助してもらい「ムラージュ」(模擬患者特殊メイク)づくり。



「ムラージュ」づくり

### 訓練開始

14時訓練開始。1分ほど地震の揺れを想定したアナウンス。

地震発生 of 災害モード発動・全館緊急放送。セミナー室に対策本部設置。正面玄関にトリアージポスト設置。院内被災状況確認、情報集約、

2019年度

## 第13回坂総合病院大規模災害実働訓練 実施



### 設定は日勤帯想定

「14時、宮城県沖でマグニチュード9.0の巨大地震発生。塩釜地区で震度7の激しい揺れが観測され、大津波警報発令。傷病者、低体温症の患者が多数発生し、当院に押

訓練目的は①本部内の情報の流れ・管理・共有方法の検証。②情報伝達・共有方法(トランシーバー使用、メッセージャー)の検証。③患者情報の集約・共有方法の検証。④エリアリーダーのスキルアップ。

4月25日(木)の午後、約190名が参加し「大規模災害実働訓練」が実施されました。今回も塩釜地区消防事務組合にご協力いただきました。





緊迫の災害対策本部



赤エリア (救急室)



黄エリア (リハビリ室)



次々と負傷者が



まず、今回の統括を担当した佐々木隆徳先生(救急科科長)が、『訓練の成功は課題を見つけることです。失敗経

### 【講評】

『本部を中心に勉強させていただいたが非常に勉強になった。』『貴重な内容を見せてもらい、各セクションの対応がすばらしかった。』等など。

1階フロアで全体会が行なわれました。

### 全体会

15時20分訓練終了。本部・エリアごとに反省会が行なわれました。

入院患者対応、外来患者避難誘導、館内負傷者、帰宅待機者対応がされていきます。まもなく救急車搬送の負傷者や多数の被災者が次々と来院しトリアージ開始。各エリアで治療が行なわれます。容態変化への対処、応援要請、医薬品調達など本部と各エリアとの緊張したやりとりが間断なくあり、トランシーバーやメッセージャーを走らせ対応。



報告する佐々木先生

『現場からの情報伝達と共有がしっかりしていて多くのことを学ばせていただいた。』『本部を中心に勉強させていただいたが非常に勉強になった。』『貴重な内容を見せてもらい、各セクションの対応がすばらしかった。』等など。

最後に、郷古親夫災害対策委員会委員長があいさつ。『訓練をやる意義は大きい。訓練を繰り返すたびに不備が出てきて次の改善策へとつながっていきます。その繰り返しで今日に至っています。訓練を継続し今後には、災害に対する万全の体制を作りたい。』と述べ終了しました。

### 訓練継続し今後に活かす



あいさつする郷古先生





## 看護部長に就任して

地域の方々から信頼が  
得られる病院、看護部  
を目指していきたい

古川民主病院看護部長

瀬戸 恵子



2019  
年1月1日  
付で看護部  
長を拝命い

たしました。宮城厚生協会に  
新卒で入職し、配属は坂病院、  
消化器科病棟でした。15年前  
に古川へ転居し転勤、2F病  
棟、3F病棟を経験し今に  
至っております。看護部長と  
なり早4ヶ月。年度末も重なり、  
想像以上の数字ばかりの  
日々で、特に私の苦手とする  
エクセル操作、看護関係の統  
計資料をつくるのに苦戦する  
毎日と、看護体制を常に考え  
る毎日(日々が続く)、師長  
たちの知恵をかりながら、業  
務をこなしているのが今の心  
境と状況です。

今後の古川民主病院がめざ  
している4つの方針、「①地  
域の医療機関や介護施設等と  
連携を強化し地域包括ケア病  
床としてのポジションを強め  
る。②生活習慣病の予防、疾

病の早期発見に努め、受診者  
ひとりひとりが健康で過ごせ  
ることに貢献する。③保健予  
防活動を継続し働く人々の健  
康を守る。④介護療養型医療  
施設から介護医療院へ転換す  
る。」を掲げていますが、一  
つ一つがより具体的に進み始  
め、法人中長期5カ年計画の  
達成に向けても責務の重たさ  
を感じ身の引き締まる思いで  
おります。

医療や介護の情勢は厳しい  
ですが、常に「命の尊厳」を  
意識し、古川民主病院の歴史  
を語り継ぎ、共同組織のみな  
さんと共に、そして地域の  
方々からの信頼が得られるよ  
うな病院、看護部を目指して  
いきたいと考えています。ま  
た、看護職員ひとりひとりの  
目指す看護を支えるために  
も、人材育成に努め、職員ス  
タッフの声を耳を傾け、働き  
やすい職場環境づくりを共に  
考え、地域住民の皆様方から  
も地域になくてはならない選  
ばれる病院になれるよう努力  
していきたいと思っております。  
どうぞよろしくお願いい  
たします。

微力ながらお役に立て  
るよう努めて参ります

泉病院看護部長

石津 ひろえ



2月に長  
町病院から  
異動となり、  
5月1日付

けで泉病院看護部長を拝命い  
たしました。「平成」から「令  
和」と年号が変わる記念すべ  
きタイミングになってしま  
いました。

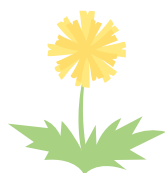
通りすがりで長町病院を見  
学しそのまま採用になって以  
来20数年間、長町病院でいろ  
いろな経験をさせていただ  
き、いろいろな方に支えてい  
ただき、感謝と同時に寂しさ  
を感じていました(いまでも  
…)。

統括看護部長の下、修行中  
ですが、まだまだわからない  
ことや業務の多さに不安たら  
けの毎日です。今後、泉病院  
がめざす方向に進めるよう、  
課題に取り組んでいければと  
思っています。同時に後継者  
育成も泉病院看護部の課題で  
もあり、師長・主任と連携し  
ながら取り組んでいきたいと

考えています。

私が何かを決める際の拠り  
どころにしている言葉があり  
ます。「仕事は役割です。研修  
の」という言葉です。研修の  
際、ある看護部長さんが話さ  
れていた一言です。委員会な  
どの依頼があると「それも私  
々？」と思うこともありま  
すが、「その役割を果たすのが  
今の自分の仕事ね…」と思い  
直し取り組んできました。

今回も「次期看護部長で異  
動」とお話しがあった時は「さ  
すがにそれは…」と思いま  
したが、新しい場所での新しい仲  
間と新しい役割に取り組める  
機会と思い「わかりました…」  
とお返事しました。温かく迎  
えてくれた泉病院のために微  
力ながらお役に立てるよう努  
めて参ります。ちなみに「あ  
る看護部長」とは昔(?)の  
泉病院の看護部長さんです。







## 楽しかった野尻湖発掘

坂総合病院患者様相談室

白砂 英男

みなさんは長野県北部にある野尻湖をご存知ですか。今は絶滅したナウマン象やオオツノシカの化石や石器が見つかる有名な場所です。新潟県立高田高校の先生が授業で発掘の話をされ、私達生徒も誘われて1973年の第5次と1975年の第6次発掘に参加しました。

### 1万人が1万点の化石を掘る大衆発掘（団体研究）の魅力

野尻湖は春先に水位が下がり湖岸から100メートル程が干上がり発掘調査が行われます。第5次の時は全国から1107人が手弁当で参加し発掘品は1402点、第6次は3652人が参加し発掘品は11152点にのぼり延べ1万人が1万点の化石を掘ると言われたものです。

発掘班に入ると10数人で4m四方のグリッド（格子）を担当します。柔い化石を壊さないようミリ単位で水平に土をはがし一部が見えたら洗浄瓶の水で流すと全体が現われます。湖底に眠っていた骨や角の表面は発見時オレンジ色で空気に触れると見る間に黒茶色に変色していきます。このあと写真と記録を取り大型の化石は石膏で固めてから取り出します。夕食後小学校体育館で発掘品が報告され、ガリ版の「野尻湖新聞」が発行されます。地元300世帯にも全戸配布。一人一人の小さな力が集まり全体として大きな力を発揮するのです。

### 南方のナウマンゾウと北方のヤベオオツノシカが並んで出土、人間が狩りをしたものか

私のグループはナウマンゾウの舌骨の後枝角（コウシカク）を見つけました。それは骨なのに形は木の枝そっくりです。付近では肋骨が沢山発見され、第5次ではナウマンゾウのキバとオオツノシカの掌状角（ショウジョウカク）が並んで見つかり、ここは氷河期に人間が象と鹿を解体したキルサイトと推定されています。発掘終了後は土を埋め戻し次の発掘を待ちます。

### 本物に触れる喜び

化石の発掘は体験した人にしか分からない感覚かも知れませんがワクワクするものです。何も見えない地面の数センチ下から3万年前の化石や古代人が作った石器が現れてくるのです。この経験はその後もいろいろな場面で集団的行動を行う参考になりました。まもなく定年退職ですが、これからもみなさんと協力し地道に努力していきたいと思っています。

来年第23次発掘の予定です。興味ある方は「野尻湖発掘調査団」ホームページを参照下さい。

